

プログラム / Program

- 9 : 00 開場
9 : 30 開会挨拶
佐無田 光 (金沢大学地域政策センター長)

SESSION 1

グリーンインフラを学ぶ

What is green infrastructure?

- 9 : 40 人口減少時代の環境創造：国内外のグリーンインフラへの期待
西田 貴明 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング)
- 10 : 20 グリーンインフラを核にした Livable City(住みやすい都市)の創成
福岡 孝則 (東京農業大学)
- 11 : 00 都市のグリーンインフラ：韓国における都市の事例からの学び
宋 泳根 (ソウル大学)
- 11 : 40 ディスカッション
- 12 : 00 休憩

SESSION 2

金沢の都市景観をグリーンインフラから考える

Reviewing the urban landscape of Kanazawa city by the green infrastructure

- 13 : 00 金沢市の防災・環境・経済からみたグリーンインフラ活用策
上野 裕介 (石川県立大学)
- 13 : 25 金沢のランドスケープと生物文化多様性：水・食・工芸
飯田 義彦 (国連大学 IAS)
- 13 : 50 金沢グリーンインフラ・ブルーインフラの創出：都市生態系サービスの保全と基礎
ファン・パストール・イヴァールス (国連大学 IAS)
- 14 : 15 庭の柵を飛び超えて：内と外を繋ぐもの
エマニュエル・マレス (国立奈良文化財研究所)
- 14 : 40 グリーンインフラの順応的ガバナンス：コウノトリの野生復帰からの示唆
菊地 直樹 (金沢大学)
- 15 : 05 休憩

15 : 20 ラウンドテーブル : Round Table Discussion

都市景観をグリーンインフラとして活用する

Use of urban landscape as part of green infrastructure

コメント : 岡野 隆宏 (環境省)

舟久保 敏 (国土交通省)

土肥 真人 (東京工業大学)

佐々木 雅幸 (同志社大学)

17 : 00 閉会

国際シンポジウム

「都市景観をグリーンインフラから考えるー金沢市における活用と協働ー」 主催校挨拶

佐無田 光（金沢大学地域政策研究センター長）

本日は、国際シンポジウム「都市景観をグリーンインフラから考える」を開催する運びとなりましたこと、お集りの皆様方、そして関係者の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。遠方よりお集まりいただきましたご専門の皆様方、誠にありがとうございます。

ソウル大学からわざわざお越しいただきました宋泳根先生をはじめ、日本でグリーンインフラ論をリードされている三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの西田貴明先生と、東京農業大学の福岡孝則先生をお招きすることができてたいへん光栄です。さらに、セッション2では、「金沢の都市景観をグリーンインフラから考える」と題しまして、国立奈良文化財研究所から来ていただきましたエマニュエル・マレス先生をはじめ、地元石川県在住のご専門の先生方を含めて5つの報告が予定されております。また、後半に予定されているラウンドテーブルには、環境省から岡野隆宏様、国土交通省から舟久保敏様、エコデモクラシー財団より東京工業大学の土肥真人先生、そして同志社大学の佐々木雅幸先生にもお集まりいただきました。みなさまそれぞれ本日はどうぞよろしく願いいたします。

金沢大学地域政策研究センターとともに、本シンポジウムの開催を共同して運営しておりますのは、金沢市、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、そして一般財団法人・エコロジカル・デモクラシー財団です。また、シンポジウムの開催にあたって、環境省中部地方環境事務所、石川県、石川県立大学、グリーンインフラ研究会、および、認定 NPO 法人趣都金澤から後援していただいております。関係者のご尽力とご後援に心より感謝いたします。

当シンポジウムの主催校である金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センターでは、地域再生に関する政策研究と国際比較を多角的な方面から進めています。センターでは、2016 年度より、日本学術振興会学術システム研究センターの委託を受けて、人文学的地域研究の国際的な学術研究動向調査を行っています。一昨年度は中国の広州市において「アジアの伝統工芸の継承と革新」と題する日中交流シンポジウムを実施し、昨年度は「暮らしと自然と文化的景観」をテーマにした国際シンポジウムをここ金沢で開催いたしました。本年度は、昨年度のテーマを引き継ぐ形で、都市景観をグリーンインフラという観点から議論するシンポジウムを企画いたしました。

本年度の企画にあたっては、金沢市の景観政策 50 周年と関連して開催しております。金沢市で全国初の自治体による独自の景観条例として「金沢市伝統環境保存条例」が 1968 年に制定されて以来、今年はそのちょうど 50 年目の節目の年に当たります。当時は高度成長の真っ只中で、まだ「景観」という言葉すら一般的ではなく、「伝統環境」という表現で、金沢市は独自に次のように定義されました。伝統環境とは、「樹木の緑、河川の清流、新鮮なる大気につつまれた自然環境とこれらに包蔵された歴史的建造物、遺跡等及びこれらと一体をなして形成される環境」であると。この理念は、狭く建造物だけを保全の対象とするのではなく、自然、歴史、そして「文化的景観」と呼ばれるような人々の暮らしと一体となった都市環境・都市景観全般を保全の対象として考える、大変先進的な理念であったと思われまふ。金沢市はこうした考え方に基づいて、その後、「こまちなみ」、用水、斜面緑地、川筋、寺社風景、沿道、夜間景観など、「景観」という概念を広く適用して、都市環境・都市生活を大事に守ってきました。そしてこれが、実は今日において欧米を中心に国際的に議論されるようになってきた「グリーンインフラ」という理念とつながってくるのではないかと考えております。本日のシンポジウムと連続して、明日 9 月 1 日には金沢市主催で、景観条例制定 50 周年を記念した市民向けの「景観シンポジウム」が金沢市民芸術村にて開催される予定になっておりますので、ぜひそちらにも足をお運びいただければと存じます。

また、本企画は、国連大学サステナビリティ高等研究所にて今年度展開されております「SDGs ダイアログシリーズ」の一環として開催されます。ご存知のように、持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals は 2030 年の達成を目指して、世界共通の 17 の目標が掲げられており、2016 年に正式に発効しました。本シンポジウムはこのうち「持続可能なまちづくり」という目標と関わって、様々な分野の専門家が集まり、SDGs 達成のためのアイデアを広く参加者と対話・共有していこうという企画であります。

地域政策研究センターでは、昨年度の国際シンポジウムから、エコロジカル・デモクラシー財団と連携しております。今年度も、昨年度に引き続き、前日 8 月 30 日に行われた現地視察のエクスカージョンで、エコデモ財団の皆様へ現地調査の取りまとめのご協力をいただいております。また今年は、上野裕介先生を通じて石川県立大学と連携しているのも新しい取り組みです。

このように、本日の企画にあたっては、幅広い関係者や組織・機関の皆様方にネットワーク的に関わっていただいております。SDGs をはじめとして社会の課題解決のために、従来のように縦割りの組織単位ではなく、組織を超えた水平的で柔軟なネットワークで取り組んでいく社会的な実験が各地で広がってきています。このシンポジウムがきっかけとなって、多分野の専門的知識をつなげ、国際比較の視点と地域の実態を踏まえつつ、ここ金沢から、新しい都市景観論、グリーンインフラ論、都市発展論を発信できることを期待しております。本日のシンポジウムが、皆様方にとって実り多き知的交流となり、地域政策の発展につながる成果が得られることを願っております。簡単ではありますが、以上、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。